



はつらつ 通信



Vol. 142
2017.5.1

●発行 医療法人北志会 札幌ライラック病院
●編集 はつらつ通信局

新年度、こころ新たに

年度初めに新入職と人事異動

年度が切り替わる春は、新しい目標へのスタートにぴったりの季節。札幌ライラック病院でも、新しい人事のもとで新年度が始まりました。

人工透析の患者さまが増えた透析室には臨床工学技士2名が入職。リハビリテーション科では生え抜きの職員が科長と科長代理に昇格。言語聴覚士が育児休暇から復帰し、マンパワーもアップしました。また、前リハビリテーション科長が総合支援センターの新しい副センター長に就任し、地域連携室の機能強化が期待されています。

医療の質向上にさまざまな取り組み

人事異動でリフレッシュした現場では、新しい取り組みもスタートしています。透析室では、透析の実施日を増やして増加する患者さまに対応。患者さまやご家族から要望の多いリハビリテーションに関しては、人工呼吸器装着の患者さまのサポート強化を目指す呼吸サポートチームを立ち上げたほか、昨年7月から行っている透析中のリハについては身体的評価のデータ化を視野に入れるなど、ケアの質向上に取り組んでいます。

今号では、このような新年度にあたっての当院の変化や新しい取り組みについてご紹介します。



左から小山内豊美科長代理、川美千代科長

磨いた専門性と培った経験を活用する新年度に 多職種連携でサポートを強化

【地域連携室】

リハ専門職が院内外の橋渡し役、
より正確に早く情報を共有



**経験豊かな理学療法士が
紹介先病院と連携を強化**

総合支援センターの新しい副センター長に就任したのは、前リハビリテーション科長の佐藤純吾理学療法士。理学療法士としての専門性と訪問リハで培った経験が評価されての抜擢で、多岐にわたる在宅部門の統括業務の一環として、当院に転院される患者さまの紹介元病院との連携強化を図る役割を担います。

「理学療法士として患者さまの状態を診ることができると強み」と山崎雄一朗センター長は、紹介元病院でのカンファレン



在宅支援センターで
地域連携室とともに
院外との連携強化を担う
佐藤純吾副センター長

ス参加、当院入院後のフォローアップ訪問など、担当者レベルでの顔の見える関係づくりでの活躍を期待。「院内はもちろん、院外との情報交換・情報共有をよりスムーズに、スピーディにできれば」と、佐藤副センター長は意気込みを語りました。

**シャントのエコー検査
透析中のリハも実施**

透析室では他部門職員の関わりも効果を上げています。リハビリテーション科では昨年7月から透析中の患者さまにリハを実施。「ちよっとした会話や運動を促す雰囲気づくりで透析室全体が活気ついたとの声をいただきました」と川美千代科長。今後は身体的評価のデータ化が課題と話します。

臨床検査科によるシャントのエコー検査は、当院透析室の大きな特色の



シャントエコーを行うのは
安田好徳臨床検査技師

ひとつ。透析を必要とする18名の入院患者さまに毎月1回以上実施し、患者さまに大きな負担をかけるシャントトラブルの予防に貢献しています。さらに検査のスピードを高めるため、安田好徳臨床検査技師はもう1名の技士の教育にも力を入れています。



透析室に向いてリハビリテーション

火・木・土曜にも実施、 屋外への散歩も支援

透析室では、患者さまの増加に伴って4月6日(木)から、月・水・金曜の午前午後だけだった透析実施を、火・木・土の午前にも拡大させました。

現在、透析を必要とする入院患者さまは18名。「10床で足りてはいたのですが、透析時間の長い方が続くと終了時間が午後7時になることもあり、ご不便をおかけしてしまいました」と、若杉直樹技士長は実施日増加の背景を説明します。

副次的な効果もありました。院内売店が休みの土曜に買い物



を希望された患者さまを、医師の承諾を得て臨床工学技士がコンビニにお連れしたところ、気分転換になると好評。今後は土曜に限らず、ご希望され外出可能な体調の患者さまを散歩にお連れしたいと計画しています。

**「透析室」
実施日を増加し、外出も支援受入体制の強化でケアも充実**

新しいスタッフを迎え、 患者さまの増加に対応

4月には新しい臨床工学技士2名が入職し、透析室は技士5名・看護師1名の体制になりました。

新入職の遠藤淳弘と高橋大介技士は同じ職場から転職。それぞれ12年と5年の勤務経験を持ち、人工透析装置の操作経験も豊富です。遠藤技士は「少しでも早く患者さまやスタッフの信頼が得られるよう頑張りたい」、高橋技士は「呼吸器についてもっと勉強したい」と入職の抱負を語りました。



高橋大介臨床工学技士
札幌生まれ。北海道工業大学(現・北海道科学大学)卒業。北海道社会事業協会余市病院に5年間勤務した後、今年4月に当院入職。



遠藤淳弘臨床工学技士
札幌生まれ。西野学園札幌医学科学専門学校(現・札幌医学技術福祉歯科専門学校)卒業。北海道社会事業協会余市病院に12年間勤務した後、今年4月に当院入職。

医療法人北志会

基本理念

私たちは、地域における病院使命を果たすうえで、「安心・信頼・満足」を目指し、よりよい医療サービス実践のため日々研磨します。

基本方針

- 患者様の生命を尊重し、人間としての尊厳及び権利を尊重します。
- 専門の医療を提供し、安心して療養に専念できる環境を整備します。
- 職員は、責任と誇りを持ち、日々学習し、専門職としての使命を果たします。
- 職種・職域を超えたチーム医療を目指します。

札幌ライラック病院を受診される皆様にご協力いただきたいこと

- 心身の健康に関する情報について担当者にお伝えください。
- 医療者の説明が不十分な時には、十分理解できるまで質問してください。
- 治療やケアの方針を決める時には、ご遠慮なく医療者と話し合ってください。
- 医療者と共につくった治療やケアの計画に積極的に参加してください。
- 院内では常識的な社会人として行動して下さるようお願いいたします。
- 札幌ライラック病院は全館禁煙です。ご理解とご協力をお願いいたします。
- 札幌ライラック病院では、各階に意見箱を設置しています。ご意見やご希望がありましたら、ご遠慮なくご利用ください。

「リハビリテーション科」

特色あるリハを目指して期待に込める多様な取り組み

多職種で関わるために 呼吸器サポーターチーム



看護師、臨床工学技士に、課題によつては言語聴覚士、栄養科、臨床検査科も加わつて、「チームで問題を解決して呼吸器に関わる全体的な取り組みを強化したい」と川美千代科長。訪問リハを統括する小山内豊美科長代理は、「要望があれば、在宅でも人工呼吸器の患者さまにリハを提供したい」と語ります。

職場環境が評価され 生え抜き職員が活躍

今年度それぞれ現職に昇格した川科長、小山内科長代理は、ともに新卒で当院に入職し、キャリアを積んで管理職となった生え抜き職員。複数の職場で経験を積んでキャリアアップする理学療法士が多い中では珍しい存在といえます。

人工呼吸器装着の患者さまと、人工透析を必要とする患者さまを積極的に受け入れている当院。リハ科も呼吸リハと透析中のリハに注力し、担当別の専門性を高める一方で、リハ科全員が両方を把握できるように定期的に科内勉強会を実施しています。外部研修の参加や資格取得も進め、現在4名いる呼吸療法認定士をさらに増やす予定です。

この5月には呼吸サポーターチームを立ち上げ。理学療法士、医師、

その理由を川科長は「入院・在宅デイケアと部門ごとに勉強できることが違い、視野も広がります。そういうかわりを諸先輩方がしてくださったのも大きい」と説明。



リハビリテーション科内の勉強会

小山内科長代理も「変化に応じて身につけてきたスキルは自分のプラスになっています」とこれまでの歩みを振り返ります。二人が新卒で入職した当時、リハ科主任として採用を担当した経営企画室の中村幸司さんは「十数年頑張ってきたことが評価された結果」と後進の成長を喜びます。

職員が明るく元気に働ける病院は、患者さまにとっても接遇に優れる良い病院。新年度も、職員に選ばれ、患者さまやご家族、地域の皆さんに支持される病院づくりを目指します。

札幌ライラック病院は皆様に次のような権利があることを認め尊重いたします。

1. 医療を受けるにあたって、大切な一人の人間として尊重されます。
2. 受診される方の個人情報やプライバシーが守られます。
3. 病状や病名、検査結果、受ける処置やケアの内容について十分に説明が受けられます。
4. 適切な説明のもとに受診される方の意思が尊重され、最良の治療やケアが選択できるように支援します。
5. 身体的なことだけではなく、必要に応じて社会的・心理的な事柄についても支援されます。
6. 療養の経過すべてにわたって、ご希望されれば複数の医師の意見を求めることができます。
7. 最善で安全な医療と必要な健康教育を受けることができます。
8. 医学研究等に参加をお願いすることがありますが、拒否することによって不利益を被ることはありません。

内科、消化器内科、整形外科、神経内科、内視鏡内科、糖尿病・代謝内科、麻酔科、リハビリテーション科

診療時間

平日 9:00~12:30 13:30~17:00

土曜 9:00~12:00 午後休診

※但し急患の方は上記に限らず随時受付いたします。

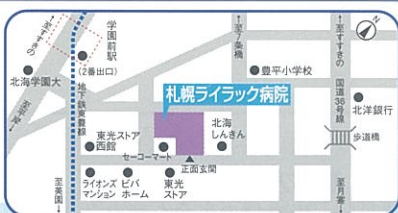
面会時間

平日 14:00~20:00

土日祝 12:00~20:00

ホームページ

<http://www.lilac.or.jp/>



お知らせ

びょういんあーとぷろじえくと2017
“光の天使”と出会う

5月1日(月)~7月31日(月) 12:00~18:00
第12回となる「びょういんあーとぷろじえくと」。今回は当院のほか、北広島市の黒い森美術館でも開催。初めてデイケアご利用者さまの作品も登場します。

●主催/びょういんあーとぷろじえくと
<http://www.hinoma.com/hospitalart/>